

ロボティクス

京阪神地区 ロボット関連3展示会開催

京阪神地区でロボット関連の3展示会が開催された。5月27日の「中小企業デジタル化・DX促進マッチングフェア2022」(主催：京都市/会場：京都産業大学ホール/出展：44社・団体)、6月9、10日の「関西ロボットワールド2022」(関西ロボットワールド実行委員会/インテックス大阪/44社・団体)、6月17日の「今すぐ使える!! IOT・AI・ロボット展」(神戸市、新産業創造研究機構/神戸サンポール/44社・団体)。京都会場には前年の約2倍の400人が来場。大阪会場では前年の1.5倍超の1万1908人が訪れ、1万3000人が来場して過去最多となった19年度に迫った。神戸会場も前年を600人上回る約2100人でにぎわった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でこの2年は十分な情報交換や提案ができなかったこともあり、いずれの会場も、DX(デジタルトランスフォーメーション)、ロボット、IoT、AI(人工知能)などの導入・活用で業務改善、生産性向上、人手不足対策などを進めたい企業と出展社・団体との活発な情報交換、商談の場になった。併催のセミナーも満席が相次いだ。

中小企業デジタル化・DX促進マッチングフェア

京都市主催、中小のDX支援

中小企業デジタル化・DX促進マッチングフェアは、今回から、主催が京都市になった。出展数は昨年(31社)より増加。基幹システム、販路拡大、新ビジネスモデル、情報セキュリティ、デバイスなどの5テーマで京都の企業が最新のデバイス、機器、システムを展示、紹介した。会場では京都大学発スタートアップのアナログフォードシステム(京都市)が、IoT・AI・ロボットをテーマにした「スマートファクトリー」をPRした。また、市内の工場に導入した最新のロボットを展示した。会場では、IoT・AI・ロボットをテーマにした「スマートファクトリー」をPRした。また、市内の工場に導入した最新のロボットを展示した。



会場では、IoT・AI・ロボットをテーマにした「スマートファクトリー」をPRした。また、市内の工場に導入した最新のロボットを展示した。

関西ロボットワールド2022 初出展多数、来場は前年比1.5倍

関西ロボットワールド2022は、第6回サイバズぶりと変わった。初出展も多画面に映し出し、真ん中のロボット、奥の回廊まで届いた。前回は、真ん中のロボット、奥の回廊まで届いた。



新規事業のロボット事業を紹介したメンテックワールドの展示ブース。会場では、IoT・AI・ロボットをテーマにした「スマートファクトリー」をPRした。



150X50mmと小型サイズのモーターエッジAI端末「AIemo」を、モーター音の監視実演展示で披露した。星和電機、星和テクノロジは、星和電機の通信機能をワンパッケージ化した屋外用遠隔監視ツール「SIBOX」と、パソコン(PC)・スマートフォン・タブレットからクラウドでデータを管理できる星和テクノロジのデータ可視化技術で、工場やインフラ設備の遠隔監視を提案した。ものレボ(京都市中京区)は、PC、タブレット、スマートフォンで確認できることを見た。

IOT・AI・ロボット展

全国の最新ロボ、システム展示

IoT・AI・ロボット展は今年で4回目。「第14回神戸ものづくり中小企業展示商談会」(主催：神戸市・神戸市・欧州パビリオン)に出展したユニバーサルロボットを加えて14社が最新のロボット、システムを展示、紹介した。富士製作所(大阪市北区)は、年内発売予定のメカナムタイプ全方向駆動ホイール「NJAI」を展示した。体感できるソフト「RiimM(リム)」の体験コーナーを設けた。ブリッジ・ソリューション(大阪府住之江区)はAIで不定形物の不良品を抽出してピッキングするロボットシステムを出品。マホドで確認でき、QRコード読み取り機能も追加した。製造業特化のクラウド工程管理DXアプリ「ものレボ」を実演展示した。



会場では、IoT・AI・ロボットをテーマにした「スマートファクトリー」をPRした。また、市内の工場に導入した最新のロボットを展示した。

マッチ ▶▶
取り組んでいます。

MADE in MARKET

現地で開発。現地で製造。